



# 大花羽だより

教育目標 **自ら学び、心豊かで、たくましく  
未来に羽ばたく子供の育成**

第11号 平成28年10月31日(月)発行 文責：蛭原 浩一

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

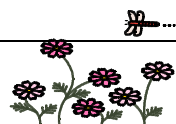
文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として実施いたしました。「教科に関する学力調査(国語A・B、算数A・B)」と「児童質問紙による学習状況調査」により実施されました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。



### 学力状況調査結果の概要

教科区分	学力調査の分析 (○成果・▼課題)
国語A 主として「知識」	○漢字を正しく読んだり書いたりすることは理解している。 ○登場人物の人物像について捉えて読むことができる。 ▼ローマ字を表記されたものを読んだり、平仮名で表記されたものをローマ字で書いたりすることの定着が不十分であった。
国語B 主として「活用」	○目的に応じて、文章を比べて読んだり、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができている。 ▼グラフや表を基にしたり、いくつかの条件を満たしたりしながら、目的や意図に応じて自分の考えを書くことが課題である。
算数A 主として「知識」	○繰り下がりのある減法の計算を正確にすることが全員身に付いている。 ○末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができている。 ○二つの数の大小関係を表す不等号の意味を理解することができている。 ▼除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることへの理解が不十分である。 ▼4枚の三角定規で作ることができる形を選ぶことができない。
算数B 主として「活用」	○示された条件を基に他の正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる。 ○二つの表から読み取ることができる情報とできない情報を正しく判断できる。 ○記述の問題形式において、式の意味の説明をしたり、理由を記述したりすることができる。 ▼図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を想像することができていない。



### 課題解決にむけた取組

- 漢字の読み書き、算数の計算について正答率が高かったのは、本校でドリルなどを行ってきたことの成果であると考えられるため、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ローマ字を習得するため、環境整備(教室の身近なものにローマ字表記・ローマ字クイズの出題掲示物)やパソコン操作(ローマ字入力)など積極的に学習に取り入れる。
- 算数の記述式の問題においては、「学び合い学習」の中で、「友達が見てわかるノート」「人に説明できるノート」づくり、及び「他者説明」等、考えを「説明する」活動を授業の中で行ってきたことの成果が現れてきている。これらの学習活動を今後も継続していきたい。
- 算数の図形の問題では、廊下の「わくわく算数コーナー」などの問題に楽しみながら、空間や平面のイメージをもつことができるようにしていきたい。
- 国語の記述問題では、正答率が低い。読書の啓発を更に図り、設問の題意や回答の条件を捉えられるよう、読む力を育てていきたい。

学力状況調査の問題は、6年生の学習内容だけではなく、全学年で学習した内容が問題として出題されます。今お子様が学習している内容は、とても大切な学習です。学習内容の定着を図るためにも、宿題など家庭学習の習慣化を図れるよう、おうちの方の見守りや励ましを引き続きお願いします。



### 学習状況調査結果の概要

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>友人関係が良好で、学校が楽しいという児童が多い。</li> <li>教師から「自分の良いところを認めてもらっている」との設問に肯定的な回答した児童は100%であった。</li> <li>「授業内容等について分かるまで教えてもらっている」と回答した児童は90%を超えている。</li> <li>「分からないことを先生に尋ねる」と答えた児童も多い。</li> <li>学習の中で、学び合い・話し合い・伝え合い、振り返りなどの活動を「良く行った」と考えている児童が多い。</li> <li>話し合い活動を通して、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的な回答をした児童が100%となっている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>挑戦意欲のある児童が少なく、自己肯定感の高い児童も少ない。</li> <li>平日の家庭生活では、TV・ビデオ(4時間以上40%弱)、ゲーム(4時間以上30%強)、電話・メール(3時間以上15%強)に費やす時間が多く、学習に取り組む時間が少ない児童が多い。</li> <li>読書に親しんでいる児童が少ない。</li> <li>家の手伝いをしたり、ボランティア活動に参加したりする経験をもつ児童が少ない。</li> <li>新聞を読むなど社会への関心が高い児童が少ない。</li> </ul>

- お手伝いをしている子供たちは、家族の一員としての責任を共有し、任された仕事をやり抜くことで工夫する力や問題解決能力が育まれます。また、感謝し感謝されることで人のかかわりを学び、優しさを養うことにもつながります。家庭でのお手伝いを通して育まれる「責任感」「自信」「感謝」が、自己肯定感を高め、生きる力が身に付いていくものと考えます。
- 規則正しい生活リズムは子供の心と体の健やかな成長に欠かせません。ぜひこの機会に、テレビやゲーム、メールなどをやる時間を決めて、望ましい生活リズムを作りましょう。

